令和６年度　第２回御前崎市スクラムスクール運営協議会　指導講評報告

１　静岡大学教育学部　中村美智太郎　准教授

（１）　幸福度ランキングについて

・ 世界 143 ヵ国中で日本は 51 位（なかなか低い位置）

・ 学力面について

PISA の学習到達度調査（81 ヵ国中）で日本はトップクラスである
（数学リテラシー・読解力・科学リテラシー）
もともと日本は以前から読解力が弱いと指摘

なぜ、幸福度は低いのに学力が高いのか

サブ調査では

「自律学習の自信がありますか」⇒　日本は 81 ヵ国中 34 位

学力調査ではトップクラスなのになぜか

・ 自分でおもしろいと思ったことを調べたり考えたりすることに自信がない

自分でおもしろい、学んでみたい、知ってみたいことを友だちと意見交換しさらにもっと調べてみたい　ということに自信がない

（自分自身に対して自信が高くないということが幸福度を下げている）

・ 身体的幸福度が１位はすごい。⇒死亡率が低い＝文化的な生活ができている
精神的幸福度やスキルが低い⇒自分に対して自信がない　自分を認める力が弱い。

（２）　分散会

言葉遣いに関する課題

・ 会話中に一言で話が終わってしまう言葉遣い（ウザイ、ダルイなど）は貧困だ

・ 幸福を考えた時に言葉は大切である。
どのような言葉で自分自身を表現するかによって幸福は変わる。

・ きれいな言葉遣いではなく、豊かな言葉で表現することは幸福度を上げる

・ 語彙力や世界をつかむ力（フレーミング）は豊かに世界を表現することが幸福を創る要因である。

・「フレーミング」に対して「リフレーミング(とらえ直す)」という言葉がある。
１度とらえたことをもう一度別の角度からとらえ直すということである。

ネガティブなことでもとらえ直すことでポジティブな部分に向きやすい。

※　フレーミング；情報の伝え方や表現によって印象が変化し、人の意思決定に影響を与える心理現象

２　静岡大学教育学部　島田　桂吾　准教授

大学生の事例

（１）　東部出身の男性

《父親に虐待を受けた学生》

高校まで

父親;言葉による暴力が日常的に受け続けた家庭環境
母親；最初止めに入るが抑えきれない

⇨ リビングでゆっくり くつろげない

大学進学後

- 教育学部志望理由；教師になれば自分のような環境の子に寄り添える
- 一人暮らしで初めて自由を感じた。
- 自由な意見が言える空間を快く感じた

その後の進路

- 教師にはならず会社を立ち上げた。（大学４年から社長）
  猫を探すアプリの開発をした。本社を渋谷に構えた。
- 自由な意見を言える環境が彼の人生を変えた。

⇩

自由に考えるということが人間としての生きる基本である

（２）東部出身の女性

《優等生で、先回りして考え準備できる学生》

高校生まで

- 母親のやってほしいこと先回りに考え行動して生きてきた。
- 大人の空気を読みすぎるので本当の自分がわからない。
- 教師になるという本人の心が見えない。
- 卒論のテーマを自由にやらせてみたが難しく、テーマを決めた方が楽にできる。

『上記２名の学生の事例からわかること』

- 子どもの意見を受け止めるのは難しい。
- 大人は先が読めるので良かれと思い行動するが子どもにとっては見える景色が違うことに気づきたい。
- 学校だけでなく、家庭や社会、部活、子ども同士でのどんなことができるかを各学校の運営協議会で子どもと一緒に考えてほしい。